



令和7年度事業報告書



本部	1
ほっとサポートしんえい	6
けやき福祉園	11
ぶどう工房	16
コトイロ日和	20
ララスマイル/ララスマイルあおば	24
クラシック	29
相談センターアンパス	31

1. 法人本部

令和7年度総括

法人理念と中期計画に基づき、運営事務局会議やサービス支援会議を通して、各事業所の課題や利用者支援について情報共有と意見交換を行いながら、法人全体で共通理解を図り事業運営を進めた。

また、各施設における継続研修や新任職員研修、管理者面談等を実施し、利用者支援の質の向上と人材育成に取り組んだ。業務改善や収支状況についても各事業所で共有を行い、安定した事業運営に向けた検討を継続した。

一方で、人材確保や人事管理制度、地域資源整備等については継続的な課題となっており、今後も法人理念に基づき、持続可能な運営体制と利用者支援の充実に向けた取り組みを進めていく。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	①管理職が事業運営（事業の質）に力を注げる体制づくり ②業務改善による適正人員配置と持続可能な人事制度 ③既存事業所のサービス提供内容の見直し（選ばれる事業所へ） ④既存事業所の適正規模化
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
⑤理念の実現に向けた、法人運営体制 ⑥再雇用職員の活躍と職員育成 ⑦BCPの作成と運用 ⑧地域の利用ニーズと法人の強みを生かした事業所整備	
地域とのつながりを強くする	
⑨地域の応援者を増やす雇用と諸団体との協働 ⑩地域で支える仕組みと連携（仲間づくり）	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	管理者が利用者支援を中心とした事業運営を行うことができる	管理者研修（内部）の実施	・定期的な研修実施の為に計画作成	必要な研修についての意見交換を行った。
		管理者兼サビ管体制への移行	・問題点の整理と改善	定例の運営事務局会議内において継続的に行った。
②	超過勤務を削減することができる。	事業所毎に業務改善についての話し合いを行う	・業務の見える化と課題整理	各事業所の業務改善項目や方法について共有を図った。
		改善計画と目標を設定する	・改善計画の作成と実行	
②	事業規模に見合った予算、人員配置で事業を運営できる。	制度設計と事業収支について職員で共有する	・運営事務局会議での共有 ・職員への情報共有	各事業所において、利用率等の収支関係の情報共有を図った。
		事業所間で業務改善内容等運営に関する情報を共有する	・運営事務局会議の定例開催	計画どおり実施した。
	職員の職務満足が高まる人事管理の仕組みを機能させることができる。	現状と問題の整理	・現状データの整理 ・必要情報の抽出 ・職員へのアンケート等現場の意見を聞く工夫の検討	運営会議において、現状について共通理解を図った。 今後の仕組みの検討に向けて、職員へのアンケート項目について検討をおこなった。
③	利用ニーズに合わせたサービス提供と、本人の願いの実現に向けた支援を行なうことができる。	利用ニーズの把握と実現に向けたサビ管級会議の実施	・目的と方法についての周知 ・会議の実施	計画どおり実施し、今後の方向性について、意見交換を行った。
		個別支援計画の立て方、活かし方勉強会の実施	・勉強会計画の作成 ・勉強会の実施	個別支援計画を持ち寄り、作成についての意見交換と法令順守の確認を行った。

④	事業所規模に見合った受け入れ人数で、願いの実現に向けたサービスが受けられる事業所が増える。	就労継続支援B型事業所整備検討委員会において検討する	・運営事務局会議及びサービス支援会議において、問題点の整理と今後の事業整備等について検討	就労継続支援B型事業を実施する事業所のサビ管級職員があつまり、問題の整理と今後の方向性についての意見交換を行った。
⑤	法人理念の設計図が職員に浸透し、価値観を共有したサービス提供ができる。	新任職員研修で周知する。	・新採用職員研修の実施	計画どおり、実施した。 各事業所において、計画を意識できるよう職員会議において、進捗状況の確認を行いながら進めた。
		事業所毎の中期、単年事業計画の周知と評価の確認（進捗状況）	・職員会議での周知 ・進捗状況の確認と共有	
	法人単位での経営・運営体制により、理念に沿った持続可能な事業運営ができる。	法人理念、中期計画、単年度事業計画の連動と評価 運営事務局会議での情報共有と自己評価 組織体制とキャリアパス制度の再考	・新様式での作成評価と報告 ・サビ管級会議との共有 ・運営事務局会議での検討と研修への参加	運営事務局会議とサビ管級会議において情報の共有を図りながら、法人理念を念頭においた、意見交換を継続的に行った。
⑥	再雇用職員が経験を活かした活躍ができる。	時代にあった再雇用制度の検討	・社会情勢の動向と先進事例等の調査 ・運営事務局会議での検討	計画通り実施した。
	対人援助の専門職としてのスキルを習得することができる。	法人研修の仕組みと階層別研修の検討（カリキュラムの作成）	・法人研修内容の検討 ・次年度計画の作成	新任研修を年2回の継続研修とし、実施した。勤続年数による階層分けと階層において必要なスキルと研修について整理を行った。
	人事管理の仕組みを踏まえた人材育成を行うことができる。	OJTの充実と面談制度の見直し	・定期面談時期と内容の共通化の検討 ・面談の実施	各事業所において、全職員との管理者面談を実施した。理事長による管理者面談を実施した。
⑦	有事の際そのリスクを軽減し、必要な事業の継続と早期復旧ができる。	BCP研修及び訓練の実施と定期的な計画に見直し	・感染対策委員会の開催 ・各事業所の防災計画のもと、訓練及び研修の実施	計画どおり実施した。

⑧	利用者とその家族が安心して暮らしているグループホームを提供することができる。	グループホーム利用希望の調査	- 法人利用者を対象としたアンケートの実施 - 意見交換会の実施	移管元との意見交換を行ったが、状況の変化から、移管について白紙となった。今後の法人としての考え方を再考することとした。
	必要とされる地域資源の整備を計画的に進めることができる	③、④と連動して行う	- 運営事務局会議 - サビ管級会議	運営事務局会議及びサービス支援会議において問題意識の共有を図った。
		問題意識の共有と運営事務局会議での検討	- 地域の実情の整理 - 法人の強みと意義の再確認	
⑨ ⑩	地元への愛着のある人材を雇用することができる。	地域住民の雇用と役員体制	地元住民や関係機関との接点を増やすための検討	HPでの情報発信や地域イベントへの参加、地域貢献活動、販売活動等を通じて地域との交流を図った。
		親和福祉会を知ってもらう広報活動	HPの活用方法と定期的持続的な発信手段の検討	
	地域で支え合う仕組みと体制づくりに向けた協働ができる。	地域自立支援協議会への積極的な参加	参加依頼の承認	計画どおり実施した。
		関係団体等や地域団体への若手、中堅職員の参加	- 現場職員への参加の必要性和意義の周知 - 既存団体への参加の際の若手、中堅職員の同行	計画どおり実施した。

(3) 施設整備

(単位：千円)

整備事業	計画概要	実行計画	金額	スケジュール/期限
なし				

(4) 職員数

	R7	R6	増減	備考
正規職員	38	39	-1	
専門職員	15	16	-1	
嘱託職員	3	2	+1	
短時間職員	47	46	+1	
計	103	103	±0	

(5) 開催状況

月	理事会	評議員会	委員会/研修等
4月			新任職員研修（1日）
5月			* 監事監査（29日）
6月	10日（火） 25日（水）	25日（水） 26日（木）	虐待防止委員会（30日）
7月	28日（月）		
8月		4日（月）	新任職員研修継続研修（1日）
9月			
10月			
11月			
12月	16日（火）	25日（木）	
1月			虐待防止・身体拘束適正化委員会（8日） 新任職員継続研修（6日）
2月			
3月	17日（火）	26日（木）	

(6) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
なし		

2. ほっとサポートしんえい

令和7年度総括

事業計画に沿って利用者休憩室のエアコン2台の入れ替えを行い、他にB型の作業室を中心に建物が古いので修繕費予算を計上したが大きな修理や故障が無かったので冬期間に資源回収小屋の雨漏りがひどくなり年度末に屋根の張替えを行った。また、利用者の増加に伴い10人の乗りワゴン車の購入を計画していたがディーラーから納車が1年近くかかると返事があり仕方なく次年度へ送った。10月からは利用実績に合わせて生活介護の定員を4名落とし20名に変更、併せてB型の定員を4名増やし40名に増員した。

結果、B型は利用定員を超過することなく両事業とも稼働率がアップし利用料収入も増え安定経営につながった。

移動支援を介しての地域交流も大変盛んになり添乗の助手や高齢者と一緒にリトミックやしゃきり体操にも参加させてもらい利用者の皆さんの楽しみとなっている。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	①保護者の高齢化、将来の生活の場への対応 ②支援者の目指すべき価値観の共有 ③個別支援計画の見直し
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
④一人ひとりの「はたらき方」「あり方」のサービス提供	
地域とのつながりを強くする	⑤地域参加、地域貢献の取り組み

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	将来の暮らしについて事前準備を行うことができる。 本人及び家族が親亡き後も安心して暮らすことができる	個々の状況整理と今後の見通しの確認	・利用者の現況(生活環境、障がい特性・能力等)を把握して整理し今後の生活への希望、考えについてアセスメントを行う。	・面談や担当者和議、関連機関からの情報から現況を整理した。ご本人目線でのアセスメントを意識して行った。
		計画相談員との情報共有と利用計画への位置づけ	・将来の望む暮らしに向けたスモールステップな目標を共有する。	・相談員と情報共有できている。
		サービス等利用計画と個別支援計画の連動	・希望する今後の生活につながる支援目標を共有し計画に反映する。	・支援目標を共有し、サービス等利用計画と連動した計画を作成してきた。
		本人、家族への具体的な事例の紹介	・自立した生活につながっている例やそのためのサービスについて紹介し選択肢を増やす。	・相談員と連携し、担当者和議で具体的な例を紹介し、希望によりサービスにつなげた。
②	支援者が目指すべき価値観を共有し、サービス提供ができる。	法人理念の設計図の浸透を図る	・5月、11月に中期計画説明会動画視聴を行う。	・6月、12月に動画視聴を実施した。今後も継続していきたい。
		各種会議においては、法人理念の設計図を確認しながら進める	・会議時は常に設計図を机の上に置き、目指すべき価値観を共有しながら進める。	・読み上げ、確認、共有はしているが、個々での浸透までは達していない。
		利用者の願い、強みに着目した個別支援会議を行う	・特性を把握した上で、アセスメントから引き出し想像した本人の思いや強みについて支援会議で共有する。	・アセスメントからの情報、ご本人の意向や強みについて支援会議で共有してきた。
③	一人ひとりの願いに向けた本人視点の個別支援計画に基づいた支援ができる。	本部の取り組みと一体となり行う	・計画書、評価表を見直し改善案について提案し、本部・法人内事業所と検討する。	・計画書、評価表の見直しは行わなかった。次年度検討し提案したい。

		アセスメント方法の見直し	新規アセスメントシートの考案、作成	新規アセスメントシートを各事業で考案し作成し、活用し始めた。
		支援計画作成プロセスの見直し	サビ管を中心にプロセスを整理し職員間で共有する。	サビ管がプロセスを整理し、職員間で共有した。
④	一人ひとりの「はたらく」選択肢が増える	現行作業の見直し	現行の作業種目について見直し、新規作業を導入する。	新規ではないが、各業者から新たな作業の依頼がくることで作業種目が増えている。
		本人の希望・意向調査	定期的に時間を設け、希望・意向を聞きとる。	モニタリング時に希望・意向を聞き取ってきた。新規作業が来た時は支援員が個々に意向を確認している。
		利用者主体で生産できる自主製品の商品化	6年度に引き続き利用者が関われる製品づくりを行いPR・販売する。試作は継続する。	新たに編み物による製品（コースターマフラー等）の試作を始めた。カレンダー、刺し子ふきん、コーヒーフレグランスの製作は継続して行った。
	一人ひとりの「あり方」に寄り添える支援が提供できる。 介護事業の利用率を90%まで引き上げる	在籍利用者へ利用日及び利用時間増加の打診と受け入れ環境の整備	- 職員一人一人が常に「個別支援」「意思決定」を意識して支援を行う。 - 新規利用者を受け入れるとともに、在籍利用者の利用日増について検討する。 - 定員数の見直しを行う。 (B型:40 介護:20)	「個別支援」「意思決定」については、職員個々の意識に差があるため、今後チームで共有していく。 - 在籍利用者2名が利用日を増やした。 10月に予定通り定員変更を行った結果、介護事業も87%まで上昇、感染症が無ければクリアできた。
⑤	しんえいをPRして交流の機会を増やす。	町内サークル活動への参加	6年度に引き続きリトミックやいきいきサロンに参加し交流を図る。	多くの利用者が順番に参加することができて交流が図れた。
		どんちゃんまつりの継続	町内の方の意見を聞きながら、共に楽しめる、交流できる内容を企画し実施する。	前年度以上に盛大に開催することができ第一中学校の合唱部の出演は大変評判が良かった。

	地域を知りサポートすることができる。	移動支援の継続	毎週金曜日と第1、2火曜日に実施する。利用者も添乗し町内の方のサポートを行う。	- 予定の他、第4火曜日も実施した。 - 利用者の添乗も希望者が増えてそれぞれ大変楽しそうで交流も図れた。
		こども110番に登録する	こども110番の役割、地域のニーズについて把握し登録を検討する。	登録には至らなかった。次年度ニーズを把握し登録について検討する。
		町内の活動への参加 ※新たに追加	清掃、草とり、防災訓練等、協力できる活動に参加する。	町内会役員との話し合いの機会は設けたが実行は出来なかった。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援B型	40	43	9,060	91%
生活介護	20	23	4,309	87%

(4) 就労収入及び工賃計画

①就労継続支援B型

収入(売上)			平均工賃
上半期	3,556,166 円	7,491,292 円	15,793 円
下半期	3,935,126 円		

②生活介護

収入(売上)			平均工賃
上半期	343,162 円	618,887 円	2,834 円
下半期	275,725 円		

(5) 固定資産等購入計画

購入品名	金額	購入日
エアコン(電気)	248,800 円	5月9日
送迎車リース代(70,000×8ヶ月)	納車遅れにより未実施	令和8年6月予定

(6) 修繕計画

修繕内容	金額	実施日
休憩室畳入替工事	396,000 円	4月28日
資源回収小屋屋根吹き替え工事	409,318 円	3月27日

(7) 研修及び訓練計画

月	研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4 月	新任研修		
5 月		消防訓練（23 日）	
6 月		水防訓練（24 日）	2 人
7 月	BCP 非常災害対策研修（10 日）	BCP 非常災害対策訓練（10 日）	20 人
8 月	感染対策研修（18 日）	感染対策訓練（18 日）	25 人
9 月	秋葉区連絡協合同研修会（30 日）		14 人
10 月	虐待防止、身体拘束研修（28 日）		15 人
11 月	市知連合同研修会（1 日）	消防訓練（25 日）	13 人
12 月	BCP 感染対策研修（12 日） 感染対策研修（12 日）	BCP 感染対策訓練（12 日） 感染対策訓練（12 日）	4 人
1 月			1 人
2 月	事故防止研修（9 日）	消防訓練（12 日）	
3 月			

※毎月1回 運営会議・支援会議開催

※隔月 職員全体会議

(8) 苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

3. けやき福祉園

令和7年度総括

就労継続 B 型、生活介護共に以前に比べて利用率が下がってきている。生活介護は退所者が出た後、新規利用にスムーズにつながっていない状況が大きな要因ではあるが、加齢と共に働くこと、毎日外出する意欲が低下していると感じられる方もいる。一人ひとりのより良い生活のため、関係機関と連携し、改めて丁寧に向き合う必要性を感じている。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
① アセスメントの再考と個別支援計画の見直し ② サービス提供内容の見直しと業務改善	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③ 将来の暮らしに向けた支援 ④ 支援者の意識と実践力を高める取り組み ⑤ B 型事業の作業環境の改善	
地域とのつながりを強くする	
⑥ 地域性を活かした取り組みと地域参加	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	一人ひとりの願いの実現に向け、本人視点の個別支援計画に基づいた支援が提供できる。	本部との取り組みと一体となり行う(法人での統一化)	・計画書,評価表など書式の修正	個別支援計画作成、またその後の流れについて再確認し、書式の修正等を行った。
		アセスメント方法の見直し	・アセスメント～計画作成プロセスの実施状況と記録作成についての再検討	
		本人との定期面談を実施	・検討結果の実施	
		支援計画作成プロセスの見直し		

②	経験する・楽しむを自己決定、自己選択することができる。	創作、体験、交流活動を増やす	・ハピネス活動を年3回以上行い、利用者側からの発信、企画の場を設ける。 ・活動の選択肢を用意し、自分で選び活動する機会を設ける。	・就労B型では、計画通りハピネス活動を実施した。 ・生産活動などで引き続き、利用者ご本人が自己選択できる選択肢を設けることを意識し、支援を行った。
		既存作業、日課の仕組みの見直し	・作業と余暇のバランスを見直し、日課の再構築について検討	個々のニーズに応じて、再構築を順次行っている。
		業務内容の見直しと改善	・既存の活動内容の見直しを検討（種目毎の人数、場所や環境等）	作業室内をカーテンで仕切る、机や設備のレイアウトを変更し、より落ち着いて過ごせるよう環境整備を行った。
		新たな余暇活動の備品や環境整備	・活動場所についての検討、精査	次年度も継続する。
③	将来の暮らしを見据えた支援を提供することができる。 暮らしを家族、関係機関と共にサポートすることができる。	生活能力向上に向けた活動の実施	・個々の生活能力向上を意識した日常的な取り組みの実施 ・外出等、社会体験の積み重ねを意識した活動の実施	引き続きご本人の得意なことや、生活力向上を目指した取り組みを、日々の活動や外出活動に取り入れ実施した。
		本人、家族、支援者の共通意識への取り組み	・グループホーム利用の希望調査を検討 ・上記について、本部の取り組みと一体となり実施	希望調査については実施に至らなかった。次年度も継続して本部の取り組みと一体となり検討していく。
		職員向け、GH、SS事業の見学会の実施	・見学について具体的に検討（下記④の他事業所見学と一緒に検討）	実施に至っていないが、次年度も他事業所見学を内部研修として予定している。

④	学びを共有し、チームで必要な支援を実践することができる。	研修後の目標設定とPDCA	内部研修を活用し、目標設定や継続的な学びを共有する	内部研修でグループワークやアンケートを実施することで、継続的な学びを共有した。
		職員のメンタルヘルスの仕組みづくり	面談やグループワーク等を継続し、悩みや思いなどを共有できる機会を作る	管理者面談を実施し、毎月実施しているメンタルチェックの推移についても共有した。
		他事業所見学による学びの実施	他事業所見学の実施	職員へのアンケート結果をもとに、多機能型事業所の見学を実施した。
⑤	意欲とやりがいが高まる環境で働くことができる。	施設外作業の再考	上記②の作業、日課の見直しと共に検討	個々のニーズに応じて作業や日課の再構築を始めている。
		グリーンセンターを活用した地域の「はたらく」実践		
		特性に合わせた備品、補助具の整備		
		人に喜ばれる活動の考察と実施	下記⑥のクリーン活動等と合わせて検討	下記参照
⑥	地域とのつながりを増やし、広げることができる。	地域の農家と共に畑作を行い、地域交流行事に活用する	- 地域農家と連携した畑作活動の内容について再検討 - 買い物支援の継続、利用者支援への活用	- 継続して地域農家と連携し、畑作活動を実施した。利用者の方の状況に即した活動となるよう、必要に応じて検討する。 - 買い物支援は継続して実施した。
		リサイクル業務等でつながりをつくる	- 施設周辺のクリーン活動の定期的な実施 - リサイクル回収など、町内会との連携を検討、打診	七日町地区の花壇管理を受け継ぎ、取り組んだ。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援 B 型	40	49	11,073	90%
生活介護	15	14	3,026	80%

(4) 就労収入及び工賃

①就労継続支援 B 型

収入（売上）			平均工賃
上半期	4,972,689 円	12,469,976 円	20,056 円
下半期	7,497,287 円		

②生活介護

収入（売上）			平均工賃
上半期	470,150 円	761,316 円	2,566 円
下半期	291,166 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
なし		

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
送迎車両 ラジエータ修理	118,008 円	5 月 19 日
送迎バス ラジエータ修理	131,186 円	6 月 2 日
送迎バス セルモーター取替	135,190 円	2 月 16 日
給湯専用機 取替	222,200 円	3 月 25 日
自動ドア修繕	308,000 円	3 月 25 日

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月			
5月	感染対策研修（28日）		1人
6月	虐待防止研修・身体拘束適正化 研修・BCP 非常災害対策研修・ BCP 感染対策研修（28日）	感染対策訓練・BCP 感染対策 訓練・水防訓練・BCP 非常災 害対策訓練（28日）	1人
7月		消防訓練（30日）	1人
8月			2人
9月			12人
10月	内部研修（11日）		2人
11月		消防訓練（25日）	2人
12月	感染対策研修（22日）	感染対策訓練（22日）	3人
1月			
2月			
3月	事故防止研修（5日）		1人

※毎月 事業別職員会議・ケース会議、全体職員会議を開催

(8) 苦情の受付及び事故の発生状況（※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	職員の運転マナーに対する苦情	経緯と事実確認を行い、不快な思いを させてしまったことを謝罪する。職員 に対して、運転マナーや法令順守につ いて、改めて注意喚起を行う。
事故	ブロックの誤飲（疑い）	保護者に連絡、状況説明し謝罪。保護者 の指示のもと、体調観察を行う。（特変 なし）

4. ぶどう工房

令和7年度総括

7年度は、年間平均では利用率80%を維持することができ、利用者が安心して通所できる環境づくりにも取り組むことができた。一方で、月によって利用率にばらつきも見られたため、今後はさらに利用率向上を目指していきたい。また、関係機関との連携や地域への周知を行いながら、新規利用者の確保にも努めていく。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
① 特性に合わせた柔軟なサービス提供 ② 利用者のライフステージに応じた支援	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③ 自主製品の安定と持続性 ④ 利用できる対象者の拡充と事業経営の安定	
地域とのつながりを強くする	
⑤ 自主製品の販売やイベントへの参加を通して交流	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	病気の再発を防ぎ、安心して働ける場所を提供することができる。	関係機関・医療機関との連携を深める。	・体調の安定を図るために、必要に応じて、関係機関・医療機関と情報を共有する。	必要時に医療機関や相談支援専門員と情報共有を行い、利用者の体調変化に早期対応できるよう連携を図った。
	1人ひとりの状況に合わせた働き方ができる。	職員研修の機会と内部勉強会	・研修の目的を明確化し、年間計画を作成する。 ・内部勉強会を定期的に開催し、短時間でも実施しやすい形にする	年間計画の作成や内部勉強会の実施を進めたが、業務都合により十分な回数を実施できない時期もあった。今後は短時間でも実施しやすい研修形態を工夫し、継続的に学べる環境づくりを進めていく。

		相談しやすい環境整備	相談しやすい雰囲気づくり。	日頃から利用者へ声かけを行い、相談しやすい雰囲気づくりに努めた。
		半日利用を可能にする。	短時間でも達成感を得られるような作業設定。	体調や状況に応じて半日利用や短時間利用を柔軟に取り入れた。 無理なく利用を継続できる利用者が増え、通所の安定につながった。
		利用者に応じた作業内容を提供する。	作業内容の選択肢を増やす。	作業内容の調整を行ったが、個々に合った作業提供が難しい場面もあった。 作業の選択肢を増やし、柔軟な作業提供を進めていく。
②	高齢化や「親なき後」を見据えた支援を提供できる。	社会資源などの情報を提供する。	必要と思われる情報をピックアップする。	制度やサービスに関する勉強会の計画や情報収集は行ったが、実施までには至らなかった。 実施時期や内容を再検討し、関係機関とも連携しながら開催につなげていく。
			相談員によるサービスや制度についての勉強会の実施。	
③	安定した工賃を持続的に提供することができる。	工賃を確保する。	作業の確保と作業工程の見直しを図る。	施設外作業として受託していた企業からの作業量が減少し、年度途中からは作業提供がなくなる状況となった。安定した作業確保ができるよう、新たな受託先の開拓や安定した作業確保に努めていく。
		販路、販売箇所の拡大	チラシや SNS での宣伝を強化する。	チラシや SNS での発信は十分に実施できなかったが、新たに 1～2 か所の販売先につなげることができた。 広報活動の方法を見直し、SNS 等も活用しながら販路拡大を目指す。
	支援者がパン製造の専門的技術を習得することができる。	作業種目の拡大	作業のやりがいや工賃向上を目指し、持続可能な作業体系を構築する。	利用者の特性に合わせた作業をさらに検討し、継続可能な作業づくりを進めていく。

		講師による技術指導。	・年 2 回、「パン製造」講習会を開催し、マニュアルの見直しをする。	講師の都合により技術指導は実施できなかったが、地域のパン屋視察を行い、製造方法や販売方法について学ぶ機会を設けた。なお、マニュアルの見直しまでは実施できなかった。
④	利用率を 80%以上に維持することができる。	①の取り組みと合わせて取り組む	・工賃規定に「がんばりを評価する制度」を導入する。 ・①の計画と同様	作業収入の確保に努めるとともに、工賃規程を新たに整備し、頑張っている利用者に対する手当を設けた。
	多様化するニーズに対応したサービス提供ができる。	利用できる対象者の拡充を図る。	・支援学校へ情報を提供する。 ・積極的に見学を受け入れる。	関係機関への情報提供や見学受け入れを行い、新規利用につながる場面があった。地域への周知を継続し、多様なニーズに対応できる体制づくりを進めていきたい。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援 B 型	20	22	3,879	80%

(4) 就労収入及び工賃

①就労継続支援 B 型

収入（売上）			平均工賃
上半期	5,746,409 円	12,987,953 円	45,017 円
下半期	7,241,544 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
急速冷凍庫	473,000 円	8 月 26 日
GHP リース	89,430 円/月	12 月 20 日

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
天井修繕	103,400 円	11 月 14 日

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月			
5月	事故防止研修（26日）		
6月		BCP 非常災害対策訓練（6日）	
7月	BCP 感染対策研修（1日） BCP 非常災害対策研修（22日）		1人
8月			
9月	合同研修（30日）		3人
10月		消防訓練（24日）	1人
11月	感染対策研修（27日）	BCP 感染対策訓練（7日）	1人
12月	新任（採用時）研修（8日） 採用時虐待防止・身体拘束適正 化・感染対策研修（8日） 虐待防止・身体拘束研修（22日）	感染対策訓練（19日）	
1月			1人
2月		水防訓練（6日）	1人
3月		消防訓練（30日）	1人

※毎月2回職員会議・ケース会議を開催

(8) 苦情の受付け及び事故の発生状況（※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

5. コトイロ日和

令和7年度総括

令和7年度は、厨房内空調設備の機能が著しく低下したため、それを更新し作業環境を整備した。

社会情勢から米を含む材料費や水光熱費の高騰により、利用者作業工賃の確保が難しくなってきたため、令和8年1月から給食費を620円⇒670円に値上げさせていただいた。材料費の高騰は、次年度も予測されるため、その都度対応を検討していく必要がある。

外部向け弁当の製造販売は、コトイロキッチン（店舗）での販売を主としながらバザー等にも出店し地域交流を図ることができた。

次年度から新規の利用者が2名増えるが、厨房内作業スペースが作業人員に対して狭く、窮屈な状態である。より効果的な人員の配置を検討していく。

（1）基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願を一緒にはぐくむ	①利用者が活躍できる環境と仕組みづくり ②資質向上とリスクマネジメント
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
③個別支援計画の見直し	④専門知識のいる製造作業の安定性と持続性
地域とのつながりを強くする	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	個々の得意を活かした働き方ができる。 販売に行き、人と接することができる。	分業製造による効率化	・利用者のスキルの評価と作業の割り振り ・業務手順や作業の流れの計画 ・利用者へのマネジメントとサポート	分業体制はとれていた。 利用者配置のバランスが給食業務に偏っていた。
		製造量と販売品目の増加	・必要な設備、資材を確保し生産性を向上させる ・需要の高い商品を生産する	外部向け弁当5種、総菜3種を毎日17～25個製造・販売を行った。 不定期で注文が入ったものについても、可能な範囲で対応した。
		利用者と外部販売の実施	・販売活動の計画と実施 ・トレーニングと準備 ・サポートとフォローアップ	店舗販売を主に他事業所への外部販売を継続した。 回数は少ないが、休日のバザーでも出店機会を設けた。
②	安心・安全の食を届けることができる。	衛生管理の勉強会	・勉強会の計画と実施 ・継続的な学習と改善	衛生管理マニュアルについて事業所内で周知した。
		マニュアルの作成	・厚生労働省の衛生管理マニュアルを参考に作成する ・定期的な更新と改善	事業所の衛生管理マニュアルを作成した。
	自信とやりがいを持って取り組むことができる。	新たな挑戦ができる作業設定	・利用者の能力や興味の把握 ・目標の設定とフィードバック	面談時に「挑戦したい作業」について聞き取りを行った。
		目標を設定し、定期的に振り返りをして評価する。	・個別面談の実施 ・目標を現実的で達成可能なものにする ・定期的なフォローアップ	定期的に面談を実施した。スモールステップな目標を設定しその達成に向けて取り組んだ。

③	一人ひとりの願いに向けた本人視点の個別支援計画に基づいた支援ができる。	本部との取組みと一体となり行う	本部と連携をとり、計画書改善案、評価表改善案の作成	個別支援計画作成のプロセスについて点検、確認を行った。
		アセスメント方法の見直し	- 本人用聞き取りシート及び評価シートの作成 - 実施後の振り返りと修正	
		支援計画作成プロセスの見直し	障害特性に合わせた本人用計画の作成	
④	多くの人にコトイロの味を届けることができる。	SNS等を活用して広く情報発信する。メニューの工夫、季節に合わせたメニューを取り入れる。	- 定期的な投稿 - 魅力的な内容を投稿する - コトイロ風弁当の開発 - 季節感を演出するメニューの考案	Instagramを定期的に更新した。
		販路の開拓をする。	- 新たな販売機会を見つける - SNS等を活用して広く情報発信する	注文販売のためのチラシを作成し、2事業所に配布したが、成果は得られなかった。
		①②の取組みと連動して行う。	①②の実行計画と同様	バザー等、様々な販売機会を活用した。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
就労継続支援B型	20	21	4,415	92%

(4) 就労収入及び工賃

収入(売上)			平均工賃
上半期	13,088,986 円	31,856,470 円	23,998 円
下半期	18,767,484 円		

(5) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
厨房空調機	2,365,000 円	8月7日
エアコン14畳用	214,500 円	7月25日

(6) 修繕

修繕内容	金額	実施日
なし		

(7) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月	新任（採用時）研修（1日）		
5月			
6月		BCP 非常災害対策訓練（20日）	
7月	BCP 非常災害対策研修（10日）		
8月			1人
9月			2人
10月		消防訓練（19日）	
11月	感染対策研修（27日）	感染対策訓練（27日）	
12月	BCP 感染対策研修（12日）	BCP 感染対策訓練（12日）	
1月			
2月	虐待防止・身体拘束研修（27日）	水防訓練（9日）	1人
3月	事故防止研修（13日）	消防訓練（13日）	

*毎月 職員会議開催

(8) 苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

6. ラスマイル/ラスマイルあおば

令和 7 年度総括

本人視点を大切にした個別支援計画の作成と支援の充実に向け、アセスメント方法や支援会議の見直しを進めながら、支援の方向性や情報の共有に取り組んだ。また、保育所等訪問支援事業の開始に向け準備を進め、地域ニーズに応じた支援体制の拡充を図った。

今後も、利用者や家族のニーズを踏まえながら、地域に必要とされる支援のあり方について検討を重ねるとともに、事業所整備の実現に向け、安定した支援体制の構築に努めていきたい。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒に育む	
①本人視点の個別支援計画の作成と PDCA サイクルの徹底	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
②事業所の整備と必要なサービス提供の調整 ③人材の確保と育成	
地域とのつながりを強くする	
④家族が安心して子育てするためのサポート体制	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	一人ひとりの願いの実現に向け、本人視点の個別支援計画を作成することができる。 (1 年後)	本部の取り組みと一体となり行う	- サビ管会議への参加 - 個別支援計画作成の勉強会への参加	サービス支援会議にて法人内事業所の書式やアセスメント方法等について現況や課題の共有を行いながら進めた。
		本人と一緒に作るためのアセスメントの見直し、面談の実施	- 本人用聞き取りシート及び評価シートの検討 - モデル実施（発達、知的） - 実施後の評価と修正	- 個別支援計画の書式の修正を行った。 - 本人視点での計画作成に向けて、アセスメント方法や本人視点について話し合いを重ね、意識の共有を行った。

		本人に伝えるための支援ツールの作成と説明	・障害特性に合わせた本人用計画の検討と作成 ・モデル実施	・次年度も継続し、書式の検討、見直しを行っていく。
	個別支援計画に基づいた支援を行うことができる	全職員が支援の方向性や目標を共有できる支援会議の実施	・支援プログラムの周知 ・支援計画作成から支援会議実施へのプロセスの見直し	・支援計画作成の流れを見直すとともに、会議実施までのプロセスを再確認し、職員共有のうえ会議を実施した。
		支援計画を中心とした打合せの実施と日課の組み方の工夫	・個別支援を軸にした日課と取り組み内容の見直し ・個別目標が確認できる活動計画書の作成 ・支援計画に基づいた打合せ方法の見直し	・活動をベースとして日課の運用を見直し、個々の支援を軸とした日課となるよう大枠や構成の再検討をした。個々の支援内容に焦点を当てた話し合いができるよう職員間で引き続き取り組んでいく。
		計画に基づいた評価可能な支援記録の取り方の研修と実施	・記録の取り方についての研修と実施 ・実施後の修正の見直し	・個々の支援に対しての記録になるよう実施。 ・記録を生かした支援検討方法の見直しを実施。
②	地域に関わらず必要なサービスを提供することができる	事業の整備については本部と一体となっていく	・新事業所や児童発達支援について、地域のニーズと現状の整理 ・人材育成と人材確保に向けた取り組みの検討	・新事業所は物件と職員体制が整っていない。人材確保を優先にし、整備を進めている。 ・R8年4月より、保育所等訪問支援事業を立ち上げた。
		対応できる送迎範囲を考え、事業所設置場所の検討を行う	・既存利用者の学区整理 ・送迎にかかる時間の想定	・今後の事業所設置をふまえて、両事業所で送迎可能な学校について、整理・調整を行った。
		地域の利用格差を解消するための方法を検討する	・送迎体制の見直し	
	将来に向けた支援提供を行う。	既存利用者の利用ニーズの把握と情報を整理する	・次年度に向けた意向調査表の見直し ・実施後の振り返りと評価	・次年度の利用に関して利用希望調査を行った。

	成長段階に応じた必要なサービスを調整することができる。	成長に応じて必要なスキルを本人、保護者、支援者が共有できるツールを作成する	- 生活年齢に応じたライフスキルのアセスメントシートの検討 - モデル実施	アセスメントシートの検討及び作成まで至っていない。
		ライフステージの変化やイメージを見通せる具体例の提示	- 在学、進学状況や卒業後の進路について実績の集計 - 具体例提示方法の検討	状況や実績の集計まで至っていない。保護者からの要望も多いため、次年度も継続し提示方法等について検討が必要。
③	業務や支援に必要なスキルを習得することができる。	外部研修への参加と研修後の施設内勉強会の実施	- 外部研修参加後の伝達研修の実施 - 内部での勉強会の開催	外部研修への参加はしたが、その後の伝達研修までには至らなかった。
		自分たちの学びを共有する、内部研修の実施	テーマに基づいた研修を企画し、実施する。	パート職員も含めて、内部での研修会を実施した。
		研修後の目標設定とPDCA	目標管理シートの実施（内部研修と合わせて行う）	実施していない。
		職員間で担当する業務を教える、サポートする体制を作る	- 日常業務の見直しとマニュアル作成 - 担当業務の見直し	日常業務に関して、業務改善を行う。
④	保護者が子育てに関わる情報を得ることができる。	保護者同士のつながりの機会の提供	保護者向け研修の実施方法の検討	前年度のアンケート結果をもとに、開催方法について検討し、2月にラカフェを実施。参加者アンケートを実施し、内容について意見や感想を収集した。アンケート結果を踏まえ、次年度以降も継続してラカフェを開催していく。
		保護者会向けの研修会の実施	- 保護者研修の実施 - 次回開催に向けたアンケートの実施	

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
ラスマイル	20	60	5,379	98%
ラスマイルあおば	20	40	4,996	105%

(4) 固定資産等購入

事業所	購入品名	金額	購入日
ララスマイル	パソコン	115,800 円	6 月 19 日

(5) 修繕

事業所	修繕内容	金額	実施日
ララスマイルあおば	インターホン	118,816 円	10 月 1 日

(6) 研修及び訓練

ララスマイル

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4 月			
5 月	BCP 非常災害対策研修(23 日)	水防訓練（23 日）	2 人
6 月	合同研修（18 日）		1 人
7 月	事故防止研修（16 日）		
8 月		消防訓練（5 日）	1 人
9 月		BCP 非常災害対策訓練(16 日)	2 人
10 月	BCP 感染対策研修（15 日） 合同研修（15 日）	BCP 感染対策訓練（15 日） 消防訓練（19 日）	
11 月	合同研修（13 日）		2 人
12 月	感染対策研修（18 日）	感染対策訓練（18 日）	1 人
1 月	虐待防止研修（22 日）		
2 月			2 人
3 月			

※毎月（8月以外） 職員会議開催：（ララスマイル）第3水曜日／（あおば）第3火曜日

ララスマイルあおば

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月			
5月	BCP 非常災害対策研修(20日)		
6月	合同研修（18日）	水防訓練（30日）	1人
7月	事故防止研修（15日）		
8月		消防訓練（27日）	2人
9月		BCP 非常災害対策訓練(24日)	2人
10月	合同研修（15日） BCP 感染対策研修（15日）	BCP 感染対策訓練（15日）	
11月	採用時研修（4日） 合同研修（13日）		1人
12月	感染対策研修（17日）	感染対策訓練（17日） 消防訓練（19日）	2人
1月	虐待防止研修（22日）		1人
2月			1人
3月			

※毎月（8月以外） 職員会議開催：（ララスマイル）第3水曜日／（あおば）第3火曜日

（7）苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

7. クラシク

令和7年度総括

事業所や相談員との情報共有を図りながら、具体的な親と離れた暮らしのイメージ・体験ができるよう利用の受け入れを行なった。

引き続き本人とご家族が将来の安心した暮らしに向けた事前準備ができるよう事業運営を行っていきたい。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願いを一緒にはぐくむ	
①グループホームへの移行に向けた取り組み	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
②小規模の特性を活かした法人外部利用者の受け入れ ③利用ニーズと稼働日のバランスがとれる職員配置	
地域とのつながりを強くする	
④家族が安心して子育てするためのサポート体制	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	安心と自信をもって、グループホームに移行できるよう、各施設と連携した支援を提供できる。	本部、各施設の取り組みと一体となり行う。 移行に向けた段階的な体験の機会の提供（洗濯や掃除等）	・将来の暮らしに向けた意向の情報共有 ・グループホーム移行希望の確認 ・体験希望者との面談と実施	本人との面談及び相談員からの情報提供から意向を把握し共有を図った。 ご利用の際に本人の希望に応じて、掃除・洗い物などの体験の機会を提供した。
③	利用ニーズに応じて稼働日を増加することができる	者・児童の枠にとられない職員配置に向けた取り組み（勤務の工夫）	・者の支援施設職員の児童受け入れ稼働日の遅番勤務の配置 ・夜勤専属職員の雇用の検討	職員体制の関係もあり、稼働日の増加には至らなかった。

(3) 利用者の受け入れ

	利用定員	契約者数	延べ利用者数	利用率
短期入所	5	62	660	87%

(4) 固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
ドラム式洗濯機	248,600 円	1 月 1 9 日

(5) 修繕

修繕内容	金額	修繕時期
なし		

(6) 研修及び訓練

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4 月			
5 月	BCP 非常災害対策研修(23 日)	水防訓練（23 日）	
6 月			
7 月	事故防止研修（16 日）		
8 月		消防訓練（5 日）	
9 月		BCP 非常災害対策訓練(16 日)	
10 月	BCP 感染対策研修（15 日）	BCP 感染対策訓練（15 日） 消防訓練（19 日）	
11 月			
12 月	感染対策研修（18 日）	感染対策訓練（18 日）	
1 月	虐待防止研修（22 日）		
2 月			
3 月			

(7) 苦情の受付け及び事故の発生状況 （※事故においては新潟市へ報告した事案）

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	

8. 相談支援センター アンパス

令和 7 年度総括

サービス等利用計画の書き方や、ライフステージごとに確認する事項について検討を行った。定例会議では、課題の共有や、困難な事例については事業所全体で検討を行った。新規利用者は児童を中心にニーズがあり、可能な限り受け入れを行った。令和 8 年度の定例会議では、新たな取り組みとして、事業所内で IP 法を活用した事例検討やグループスーパービジョンを行い、個々の相談員の質を高めていくことに力を入れていく。また 24 時間対応及び地域生活支援拠点登録についても検討を行う予定。

(1) 基本方針

目指すべき方向性	
一人ひとりの願を一緒に育む	
① 本人中心の計画づくり	
必要なヒトに必要なコトを必要なカタチで	
② 相談員 1 人あたりの相談件数の適正化 ③ 多様化するニーズに対応するため、情報を得る仕組みづくり	
地域とのつながりを強くする	
④ チーム支援を常に意識し、多職種間で連携できる関係性づくり	

(2) 行動計画

	中期計画		単年計画	
	目 標 (あるべき姿)	目標を達成するための具体的な方法	実行計画	実施状況・結果等
①	本人の意向を中心とした、サービス等利用計画の作成ができる。	サービス等利用計画の書式（書き方）の検討、統一化	- 計画について、書き方の統一を検討する。 - ライフステージや生活状況に応じた、統一すべき内容等について検討してまとめ、実施する。	計画についての書き方を確認し、ライフステージ等で確認すべき内容について整理した。

②	ライフステージの変化を見通し、1人1人の生活プランに丁寧に向き合うことができる。	相談員 1 人あたりの担当件数について検討	新規依頼の状況や、その他目標の進捗状況等を見ながら、担当件数の増減について検討する。	介護保険の移行等で終了した利用者が13名。新規受け入れが12名。
		ケース事例を全体的に把握できるよう、定例会議の内容について検討	毎週定例会議を実施し、各相談員から事例提供することで、情報の共有を図る。	特に周知すべきケースについて共有を図った。
③	社会資源について情報を収集・更新できる。	事業所内での勉強会の検討	- 定期的に加算の条件や書式について確認する。 - 福祉サービスについて情報共有しつつ、区内の他事業所とも連携し新たな情報収集にも努める。	区内の事業所と情報を共有することができたが、加算の条件については来年度も継続して行う。
④	1人1人の生活プランを、地域で支えるチーム（仲間）を作ることができる。	相談連絡会への常時参加	毎回 1 名以上参加する。	相談連絡会には毎回 1 名以上参加した。
		自立支援協議会（ワーキング含む）への参加	各自ワーキングに参加し、所内で情報を共有する。	自立支援協議会やワーキングに参加し、会議の内容を所内で共有した。
		各種会議、研修への積極的な参加	参加し、所内で報告することで学びを共有する。	研修内容を定例会議等で共有した。
		24 時間対応及び、地域生活支援拠点登録について検討	半期に 1 度程度、所内会議にて、支援が必要な家庭についての共有を行う。	支援が必要な家庭について共有し、24 時間対応について検討した。

（３）利用者の受け入れ

	契約者数	計画	モニタリング
特定相談	215	212	556
障害児相談	70	79	131
計	285	291	687

（４）固定資産等購入

購入品名	金額	購入日
なし		

(5) 修繕

修繕内容	金額	実施日
なし		

(6) 研修及び訓練（研修・訓練は、ほっとサポートしんえいと共に行う）

月	内部研修（実施日）	訓練（実施日）	外部研修等 （参加延人数）
4月			
5月			3人
6月			3人
7月	BCP 非常災害対策研修 （10日）	BCP 非常災害対策訓練 （10日）	2人
8月	感染対策研修（18日）	感染対策訓練（18日）	3人
9月			2人
10月			5人
11月	虐待防止,身体拘束研修 （28日）		
12月	BCP 感染対策研修（12日） 感染対策研修（12日）	BCP 感染対策訓練（12日） 感染対策訓練（12日）	4人
1月			1人
2月	事故防止研修（9日）		1人
3月			

※週に1回 定例会議を開催

(7) 苦情の受付け及び事故の発生状況

	内容	対応
苦情	なし	
事故	なし	